

中田かわら版 11月号

～中田地区の地域活動をお知らせします～

発行：中田連合地区経営委員会
制作：中田かわら版制作編集委員会

協力：中田連合自治会 泉区役所
横浜市踊場地域ケアプラザ

■「中田かわら版」100号の歩み

「地域のため」の心意気で

100号到達までの歳月は8年4か月を要している。創刊は平成19年(2007)6月。中田の「福祉と健康を考える会」からスタートしている。内容も子育てサロン、親子サークル、障がい者施設、養護老人ホーム、民生委員とは、など範囲も福祉・健康に限定されていた。その後、地域住民への情報発信という意味では中田全体の行事、歴史、サークル活動など幅を広げては、ということが検討されていた。その頃、泉区の全12地区で独自の事業を活動方針に取り組んでいくことを提唱。呼応し平成20年12月、中田連合地区経営委員会(望月榮会長、79人)が発足する。その組織の一つに広報活動があり、38号(平成22年7月)から同委員会の直属となり編集方針も変わってきた。

この時、方向転換がなかったなら今の「かわら版」は無くなっていったか、変わったものになっていたかも知れない。「中田の今、むかし」の歴史や地区センター、スポーツ行事、サークル、講演会など地域に発信していったのもこの時からだ。編集部が総力あげて取り組んだ新企画<この人に会いたい>は編集委員が候補者を選び取材は分担で行った。第1回が中田連合会長・望月 榮さん、20人目の小糸義信さんまで素晴らしき「中田の顔」20人が揃った。小糸さんの場合は「かわら版」100号の記念すべき日だった。偶然の顔合わせだが、お2人には共通点が多い。年齢は小糸さんが少し先輩だが学校関係、連合自治会、地域活動、交通安全、中田の伝統芸能、イベントなど地域の発展、地域文化の向上に永年にわたり尽くした功績などだ。

ところで100号の足取りは決して平坦で来たわけではない。8年の歳月は長かったのか、短かったのかと言われれば、私は8年は短かったが100号までは長かったと言いたい。つまり記事にして紙面化することは、1回1回が勝負なのである。編集・発行とはそういう責任感、重圧が常に付きまといている。幸いその間、一度の欠号もなく続いたことは評価していいと思う。同時に踊場ケアプラザの生田、葛西両氏の理解と協力があったから可能だった。パソコン入力、印刷、配布などすべての作業をやってくれた。私たちができることは原稿が期日に遅れないようメールで送ったり、早く相手に届き負担がかからないようにしたり、写真や資料を迅速に提供することだった。一重に編集委員みんなの努力、熱意で乗り越えてきた。最後に100号が続けられた要因を考えると

- (1) 取材して文章が書ける、企画力がある
- (2) 編集・発行に安定した場所(踊場ケアプラザ)があること
- (3) 地域のために役立つ、という目的意識
- (4) 代表の奥津栄一氏を中心に編集委員のチームワークの良さ。

これからの課題としては、編集委員に若き理想にもえた人の参加。素晴らしいスタッフと一緒に「編集」作業を生で学ぶことができ、勉強になると思う。経営委員会の皆さんの温かいご支援(望月会長、井上昌司氏ら)にも心から感謝したい。

(編集委員 宮田貞夫)



創刊号 (2007年)



100号 (2015年10月)

～一人ひとりがCO₂を減らす努力をし、美しい地球を子どもたちに残そう！～

■ 100号に寄せて

編集委員の一言集



■ 皆さまのご支援に感謝

「中田かわら版」は、中田連合地区経営委員会に所属し「中田地区の地域活動を中田連合町内会に在住の住民に情報発信し、地域の活性化に努める」。が使命です。100号まで来られたのも中田連合自治会・町内会皆様のご協力、ご支援のおかげです。これからも地域に眠るたくさんの情報を発信していきたいと思っております。またイベント情報などありましたらお気軽にご連絡下さい。編集委員・代表 奥津 栄一

■ 編集委員になって良かった

保健活動に参加していた時、中田の情報紙を出すことになり、保健活動推進委員から私が参加することになりました。「中田かわら版」の名称を決めるときから関わってきました。それが100号までになり感無量です。私は中田地区についてあまり知らなかったのですが、いま編集委員になったことに感謝しています。これからも地域の情報を発信できるようにがんばっていききたいと思います。

編集委員 木下 良江

■ 「かわら版」で知る中田の歴史

私自身の「中田かわら版」の編集委員として初めての記事は「中田コミュニティハウス」(平成24年)である。泉区少年図書館が改名したころ。「中田かわら版」は中田地区の様々な情報面を提供するとともに、「この人に会いたい」では中田地区に住む色々な面で活躍されている人、また活躍してきた人などを紹介しており、中田地区を理解するのに大変役立っている。これからも魅力ある情報紙としていつまでも続けていききたいと思っている。

編集委員 市川 栄二

■ 楽しい議論に加われる喜び

地域に転がる情報や埋没しようとする情報、皆さんに知ってもらいたいさまざまな情報を紙面化できるよう、精根尽きるまで続けていきたい。「中田かわら版」に関わり始めて4年。自らの非才を承知しながらも、編集委員諸兄の厳しく楽しい議論に加われる喜びを噛みしめ、これからも「中田かわら版」に紙面を飾るように努力したい。

編集委員 山木 重樹

■ 「この人」で知る素晴らしき人々

1号が平成19年6月20日に7月号として発刊され、地域的话题を提供したり、地域で活躍されている人の紹介で平成27年10月号で100号の達成と更なる継続発行出来ることに感謝いたします。

改めて1号から読み返して、中でも「この人に会いたい」では、中田の地域活動で数多くの尊敬する立派な人がおられることを知りました。今後も地域での活躍、貢献されている人の発掘と感謝を込めての紹介、更なる地域話題の提供をと思っております。変わらずのご愛読をお願い致します。

編集委員 佐々木 弘美

■ 中田を知る立派な教科書

前任者より引き継いだ当初から、「中田かわら版」は私にとって中田を知るための教科書です。記事内容の質の高さに加え、読みやすく引き込まれる文章は、勉強嫌いな私には、楽しみながら中田を学べる大切な存在です。また、編集会議では、更に濃い地域情報が飛び交っており、知れば知るほど中田を好きになっていきます。特に地域の若い世代の方には、読むだけでなくぜひ編集会議にもご参加（見学）いただくことをお勧めします。これからも中田を愛し、その中田にお住いの方々から愛される記事をお届けしたいと思っています。

踊場地域ケアプラザ 葛西 健一